

## 岩手県野田村の支援活動報告(2011年6月30日)

今回は急な依頼の臨時便で、事務局が1人だけという前日眠れない程の緊張を伴う1日の始まりでしたが、ほとんどが経験者・いつもの顔ぶれが揃っていたため、バスの雰囲気も非常に和やかで、野田に入る頃にはとてもリラックスしていました。急な依頼であったにも関わらず、学生4名、市民12名の計16名(うち男性11名、女性5名)が集まって下さいました。

この日は「仮設住宅への物資の搬入」という内容で、7月2日(土)の引越しの前段階として、県物資、村物資である布団、毛布、テーブル、米、飲料水(水、お茶)、レトルト食品などを人数分各部屋に搬入する作業でした。8人組の2チームに分かれ門前小路、泉沢、米田、下安家地区の4地区を午前午後に分けて作業を行いました。

私が入った班は午前中に門前小路、泉沢地区担当で、皆で自転車をこいで向かいました。大阪大学の渥美先生のチームとも合流し、ワールドビジョンジャパンの方々の的確な指示のおかげでとてもスムーズに作業が進みました。渥美先生は搬入作業を行いながら、仮設住宅の欠点、お年寄りにとって不自由な階段作りの玄関、木造の隙間に杖が引っ掛かる危険性、スロープの有無。「きれいな仮設住宅で良かったね。」の一言では済まない様々な問題点を発見していました。



道の駅おりひめにて集合写真



ワールドビジョンジャパンの方々の的確な指示

午後はボランティアセンターの方々の運転で米田、下安家地区へ向かいました。雨がポツリポツリと降りだす中でもスムーズに作業が進み、私が入った班は午後の作業は1時間半程で終了してしまいました。

しかしもう1つの神さん班長の班は物資が多く2回に分けて搬送したこと、降り出した雨が本降りになってしまったことから作業が遅れていたため、私が入っていた班から何人か手伝いに向かいました。しかし雨の勢いは増すばかりでなかなか作業が進みません。そんな中でも大声で声を掛け合い、物資が濡れないようダッシュで運び入れ、皆ずぶ濡れになりながらも15時半には作業をやり遂げることが出来ました。



**布団の搬入作業**



**段差のある玄関**

帰りのバスで感想を伺うと、いつもの瓦礫撤去とは違うボランティア活動は皆さんにとっても新鮮だったようで、新しい生活の始まりに携わったこと、4地区を回る途中で見た村の風景、以前片づけをした畑に植えてある作物、野田村が復興に向かって前進していることを改めて感じる事が出来たとのことでした。一方で仮設住宅自体の問題点(段差など)や病院から遠い等の立地場所の問題、4地区全ての仮設住宅の作りが違うこと・くじ引きで入れる住宅が決まることによる不公平さ、これによって住民間で問題が出てきてしまうのか…?などの課題となる部分も見えてきましたが、その「隙間」も私達ボランティアが埋めていくことが出来たらと思い、これからも一層野田村と関わっていきたいと思いました。

そして最後に個人的な話になりますが、事務局1人という状況で緊張と不安でいっぱいだった中、何事もなく無事に活動を終えられたのは参加して下さった皆さんの明るさ・笑顔・優しさ・チームの連携力があつたからであり、1人1人の存在の大きさ、ありがたさをととても感じました。本当に感謝しています。ありがとうございました。こんな素敵な方々と、そしてこれから出会う素敵な方々と共にこれからも活動していきたいと強く思いました。

(担当 目黒 杏奈)